

根釧の経済概況（令和7年9月末基準）：根室管内

水産：管内の水揚数量合計は、79,339tで前年同期比4.3%の増加、金額は37,041百万円で同比41.4%の増加。

①根室管内総水揚高（各年1～9月）

根室市			根室管内3町		根室管内合計			
	数量(t)	金額(百万円)	数量(t)	金額(百万円)	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減
R7	40,754	18,889	38,585	18,152	79,339	+4.3%	37,041	+41.4%
R6	37,297	14,410	38,728	11,772	76,025	▲0.1%	26,182	+7.7%
R5	33,311	12,009	42,852	12,300	76,163	+5.4%	24,309	+7.5%
R4	29,962	10,443	42,280	12,167	72,242	▲17.6%	22,610	▲5.6%
R3	34,748	11,257	52,890	12,691	87,728	+16.9%	23,948	+28.5%

②秋サケ漁(根室管内・各年9月末)

	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	単価(円/kg)
R7	410	▲79.6%	500	1,218
R6	1,854	+24.0%	1,729	932
R5	1,494	▲17.2%	1,027	687

・R7年9月時点での数量は410tで前年同期比79.6%減少。
 ・目廻りは2.74kg/尾で、9月末時点では前年よりやや小さい傾向にある。漁開始から低調な滑り出しとなり、記録的な不漁となっている。温暖化による水温上昇により、主力である4年魚の稚魚期に適水温の期間が短く、個体が小さくなり生き残りが減り来遊自体が少ない可能性も要因の一つと考えられる。

③サンマ漁(根室・各年9月末)

	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	単価(円/kg)
R7	25,986	+44.8%	10,658	410
R6	17,941	2.1倍	8,667	483
R5	8,364	+34.6%	4,215	504

・根室のサンマ水揚量は25,986tで前年同期比44.8%の増加、金額も10,658百万円で同比22.9%の増加となり、近年稀に見る豊漁となった。魚体も平均140～160gと例年に比べ大きく、想定を上回る漁獲量から発泡箱や氷等の資材不足により、9月4日から27日まで数量調整のため操業制限を行うなどした。黒潮の北上が解消され海水温が低く、安定した漁場形成に至ったことが豊漁の要因の一つとみられる。

酪農：根釧管内の生乳生産量は、699,910tで前年同期比2.4%の増加。

根釧管内生乳生産量（各年4～9月）

年度別	数量(t)	前年比
R7	699,910	+2.4%
R6	683,165	+0.8%
R5	677,352	▲4.8%
R4	711,778	▲0.2%

地区別	数量(t)	前年比
全道	2,030,211	+2.4%
十勝	662,746	+3.6%
北網	305,302	+2.2%
釧路	271,194	+3.7%
根室	428,716	+1.6%

生乳生産量（4～9月）※生乳生産量はホクレン調べ

・R7年度の根釧管内生乳生産量の上半期(4～9月)実績は699千tで、前年同期比2.4%の増加。地区別でも道東各地域全て前年同期比で増加している。
 ・根室管内は上半期9月以外は前年同月比で増加。9月も前年同月の生産量から大きな減少はない。近年の酷暑対策の効果が大きく、夏場でも大きな影響は出なかったとみられ、安定した生産量で推移した。

今後の需給動向等

・8月に牛乳類の製品販売価格の値上げが行われ、さらに需要の低下が懸念される。用途別の販売動向をみると、飲用向けは累計で前年比を下回って推移。脱脂粉乳・バター向けは累計で前年比6%ほど上回って推移している。脱脂粉乳在庫は需給ギャップが大きく、慢性的な過剰感を持つ。需要喚起や運用対策が必要とみられる。
 ・飼料・資材の価格は依然として高止まりで推移しており、管内の一部では、草地の草刈りを3回行い、飼料のコスト削減に力を入れる事業者もいる。
 ・今期は台風や津波注意報発令など自然災害によるほくれん丸の欠航が相次いだことから、今後、災害等の緊急事態発生時における生乳集荷や輸送対応への整備が必要とされている。

○R7年度根室管内月別伸び率(前年同月比・%)

4月	+1.5%	5月	+1.6%	6月	+3.2%
7月	+1.9%	8月	+1.4%	9月	▲0.0%

家畜取引：根室市場の取扱頭数は前年同期比1.5%の増加、金額は同比30.1%の増加。別海市場は金額が前年比増加。

□根室市場取引高（各年4～9月）

	取扱頭数(頭)	前年比	金額(百万円)	前年比	単価(千円)
R7	21,921	+1.5%	5,861	+30.1%	267
R6	21,595	▲7.1%	4,504	+2.4%	208
R5	23,265	+2.2%	4,395	▲2.6%	188

□別海市場取引高（各年4～9月）

	取扱頭数(頭)	金額(百万円)
R7	3,125	585
R6	3,414	389
R5	3,801	415

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
初生ホルスタイン牡 (単位：千円)	54.1	64.0	77.3	48.6	24.2	19.6
肉牛ホルスタイン経産牛 (単位：千円)	203.8	215.6	251.9	251.3	203.6	233.1

貿易：輸出は前年同期比26.2%の減少、輸入は同比12.1%の増加。(R7年1月～9月貿易実績・根室税関支所発表・()内前年同期比)

【総額】60億2百万円(+11.8%) 外国貿易船の入港隻数236隻(前年比▲3隻)
 【輸出】29百万円(▲26.2%) 冷凍魚介類：17百万円(前年度実績なし)、輸送用機器：0.3百万円(▲67.1%)、漁網：3百万円(前年度実績なし)、その他：8百万円(▲61.7%)
 【輸入】59億73百万円(+12.1%) 生鮮魚介類：56億62百万円(+6.9%)、冷凍魚介類：3億10百万円(10.2倍)

- ・輸出…冷凍魚介類はカニの輸出が全増。ひも・網・ケーブルは実績なし、漁網は前年度から全増した。
- ・輸入…生鮮魚介類(活ウニ)が前年比増加、冷凍魚介類(サケ・マス)は前年比10.2倍と大幅に増加。

根釧の経済概況（令和7年9月末基準）：釧路管内

水産：釧路港は数量、金額ともに前年同期比で減少。厚岸港は数量、金額ともに同比で増加。

①釧路港総水揚高（各年1～9月）

	全体			
	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減
R7	99,467	▲25.3%	6,408	▲24.3%
R6	133,164	+7.5%	8,468	+8.7%
R5	123,771	+5.8%	7,785	+18.2%
R4	116,894	▲12.4%	6,585	+20.1%
R3	133,539	+2.8%	5,480	+7.7%

	(うち、スケソ)				
	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減	単価(円/kg)
	8,188	▲18.9%	525	▲3.5%	64
	10,102	+12.0%	544	▲5.4%	54
	9,014	▲53.9%	576	▲44.7%	64
	19,574	▲25.3%	1,043	▲6.1%	53
	26,213	+0.1%	1,111	▲0.9%	42

②釧路港魚種別水揚高(R7年1～9月)

主な魚種	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減
スケソ	8,188	▲18.9%	525	▲3.5%
マダラ	5,591	+10.5%	1,406	+33.0%
サンマ	1,429	32.4倍	504	31.8倍
イカ	173	4.3倍	156	16.2倍
カレイ類	444	+13.2%	69	▲6.9%
サケ・マス	12	▲65.7%	12	▲58.3%
ホッケ	2	▲77.7%	0.8	▲74.1%
イワシ	82,347	▲29.1%	3,171	▲48.9%

③厚岸港水揚高(各年1～9月)

	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減
R7	7,983	+31.2%	3,595	+26.3%
R6	6,083	▲9.6%	2,845	+10.3%

④厚岸港魚種別水揚高(R7年1～9月)

主な魚種	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減
サンマ	3,613	5.1倍	1,118	3.2倍
カキ	355	▲23.4%	545	▲18.6%
アサリ	1,112	+8.1%	835	+14.1%
ツブ	600	▲1.3%	351	+5.9%

【釧路港水揚】

- ・釧路港の1～9月の数量は、99,467tで前年同期比で25.3%の減少。金額も6,408百万円で同比24.3%の減少。
- ・サンマが近年では豊漁となり、数量は前年同期比32.4倍、金額も同比31.8倍で大幅な増加。イカも数量が4.3倍、金額も16.2倍と大きく増加した。
- ・サケ・マス、ホッケや主力魚種であるイワシが前年同期比で大きく減少しており、全体減少の大きな要因となった。
- ・イワシの巻き網漁は、漁期序盤から海水温が低く推移し、水揚量が前年に比べ低迷。夏以降も銚子沖の魚群の動きが鈍く、来遊の動きが弱かったことが減少の要因とみられる。

【厚岸港水揚】

- ・厚岸港の1～9月の数量は7,983tで前年同期比31.2%の増加、金額は3,595百万円で同比26.3%の増加となった。
- ・主要魚種別では、道東沖にサンマの漁場が出来ており、数量は3,613t、前年同期比で5.1倍、金額も1,118百万円で同比3.2倍となり、数量・金額ともに大幅な増加となった。
- ・カキは数量355tで前年同期比23.4%の減少、金額は545百万円で同比18.6%の減少となった。
- ・アサリは数量1,112tで前年同期比8.1%の増加、金額は835百万円で同比14.1%の増加となった。主産地である愛知県で不漁となり、引き合いが強まっていることが金額増加の要因とみられる。
- ・ツブは前年同期比で数量は減少、金額は同比增加した。

製紙：市内製紙工場のR7年度上半期（4～9月）生産量は、前年同期比1.6%増加。

観光：R7年4～9月スポット別の観光客入込数

※peachは集計対象外

- ・釧路市のR7年度上期（R7年4～9月）の観光客入込客数は、625千人で前年同期比1.1%の減少。
- ・航空(道外)：164千人（前年比+9.0%） 阿寒湖遊覧船：61千人（前年比▲8.0%）
丹頂鶴自然公園(有料)：36千人（前年比▲7.5%） 湿原展望台：58千人（前年比▲6.5%） MOO：304千人（前年比▲2.7%）

貿易：輸出は前年同期比6.5%の減少、輸入は同比0.6%の増加。 (R7年1～9月貿易実績・釧路税関支所発表・()内前年同期比)

- 【総額】 977億77百万円 (+0.0%) 釧路港外国貿易船入港数243隻 (▲11隻)
- 【輸出】 85億15百万円 (▲6.5%) 魚介類・同調製品：19億34百万円 (+6.9%)、鉄鋼くず：25億15百万円 (▲22.7%)
動物性油脂：13億42百万円 (▲37.7%)、紙類・同製品：14億79百万円 (+15.6%)
- 【輸入】 892億61百万円 (+0.6%)
肉類・同調製品：10億99百万円 (+8.8%) 魚介類・同調製品：45億17百万円 (▲0.2%)
小麦・メスリン：14億48百万円 (+80.6%) 米：27億94百万円 (▲17.3%)
とうもろこし：265億88百万円 (+1.2%) 飼料：138億46百万円 (▲10.9%)
石炭：66億38百万円 (▲26.8%) 肥料：151億84百万円 (+8.5%) 一般機械：7億13百万円 (2.7倍)

全国・全道の経済概況（令和7年9月末基準）

住宅着工戸数

全国

■ R7年4～9月着工戸数は340千戸で前年同期比17.3%減少。月別では全月で前年比減少。内訳別では給与以外は15～20%弱の減少となった。

月別		着工戸数(戸)	前年比
R7年	9月	63,570	▲7.2%
R7年	8月	60,275	▲9.7%
R7年	7月	61,409	▲9.7%
R7年	6月	55,956	▲15.5%
R7年	5月	43,237	▲34.4%
R7年	4月	56,188	▲26.6%
R7年 4～9月計		340,635	▲17.3%
内訳			
	持家	▲15.9%	貸家 ▲17.0%
	給与	+0.2%	分譲 ▲19.8%

■ R7年度上期は11兆382億円で前年同期比0.1%の減少。月別では7月、8月が減少し、その他の月はすべて増加。

月別		工事請負契約額(百万円)	前年比
R7年	9月	2,448,067	+8.6%
R7年	8月	1,602,215	▲6.0%
R7年	7月	2,011,134	▲7.7%
R7年	6月	2,229,973	+1.6%
R7年	5月	1,250,774	+2.0%
R7年	4月	1,496,081	+0.0%
各年半期毎推移			
R7年 4～9月		11,038,245	▲0.1%
R6年 4～9月		11,052,820	+8.8%
R5年 4～9月		10,158,551	▲1.3%

公共工事請負高

全道

■ R7年4～9月着工戸数は11千戸で前年同期比32.2%の減少。上期全月で前年比減少。目的別では、給与が同比79.2%の大幅増加したものの、それ以外が同比減少。

月別		着工戸数(戸)	前年比
R7年	9月	2,187	▲6.5%
R7年	8月	2,029	▲11.3%
R7年	7月	2,215	▲24.7%
R7年	6月	1,613	▲40.5%
R7年	5月	1,128	▲56.6%
R7年	4月	1,884	▲45.0%
R7年 4～9月計		11,056	▲32.2%
内訳			
	持家	▲22.2%	貸家 ▲43.7%
	給与	+79.2%	分譲 ▲5.2%

■ R7年度上期は9,407億円で前年同期比3.4%の増加で、3年連続同比增加。発注機関別では、全ての機関で前年同期比で増加。地方公社は特に2.3倍と大幅に増加。

年別		前払保証請負額(百万円)	前年比
R7年	4～9月	940,709	+3.4%
R6年	4～9月	909,314	+9.2%
R5年	4～9月	832,311	+14.7%

発注機関別 R7年4～9月		前払保証請負額(百万円)	前年比
国		181,918	+1.1%
独立行政法人等		231,678	+14.3%
北海道		165,939	+6.0%
道内市町村		303,563	+5.0%
地方公社		8,340	2.3倍

企業倒産動向

■ R7年上期の倒産件数は5,146件で前年同期比3.1%増加。負債額は6,705億円で同比49.5%の大幅減少。件数は4年連続増加しているが、中小零細規模の倒産が目立った。

月別推移		(金額単位：百万円)		
各年4～9月	件数	前年比	負債額	前年比
R7	5,146	+3.1%	670,508	▲49.5%
R6	4,990	+18.5%	1,329,492	▲16.2%
R5	4,208	+34.7%	1,586,836	▲10.1%
R4	3,123	+6.2%	1,765,795	3.0倍
R3	2,938	▲25.7%	578,470	▲3.7%

■ R7年上期の倒産件数は141件で前年同期比1.4%増加。負債総額は181億円で同比29.5%減少。件数は若干の増加だが、負債額は大きく減少した。

月別推移		(金額単位：百万円)		
各年4～9月	件数	前年比	負債額	前年比
R7	141	+1.4%	18,145	▲29.5%
R6	139	+17.7%	25,762	+30.7%
R5	118	+22.9%	19,700	+24.7%
R4	96	+47.6%	15,796	+66.4%
R3	65	▲31.5%	9,489	▲3.7%

訪日外国人延宿泊客数

■ R6年下期の外国人延宿泊客数は76,754千人、前年同期比27.8%の増加。国籍別で見るとアジア圏が上位にランクインしており、およそ半数を占める。国際線の増加から訪日客数が増加したことに加え、円安により長期滞在者が増加傾向にある。

R6年度 下期月別推移		R6年度下期 国籍別			
月	(千人)	前年比	国籍	(千人)	シェア
3月	12,685	+17.1%	中国	14,975	19.5%
2月	11,628	+20.0%	台湾	9,772	12.7%
R7年1月	13,252	+41.1%	韓国	9,581	12.4%
12月	13,234	+28.9%	アメリカ	7,954	10.3%
11月	12,597	+29.3%	香港	3,893	5.0%
10月	13,355	+31.5%	オーストラリア	3,702	4.8%
下期計	76,754	+27.8%	シンガポール	2,698	3.5%
○年別推移(1～12月)			タイ	2,585	3.3%
R6	136,981	+44.1%	その他	21,589	28.1%
R5	95,027	6.9倍	年合計	76,754	100%

■ R6年度下期の外国人延宿泊客数は6,660千人、前年同期比46.7%の増加となった。国際路線便数やクルーズ船・大型旅客船寄港の増加、円安などの要因から前年同期比で増加した。国籍別ではアジア圏からの訪問が多く、全体の7割強を占める。

R6年度 下期月別推移		R6年度下期 国籍別			
月	(千人)	前年比	国籍	(千人)	シェア
3月	817	+39.6%	中国	1,466	22.0%
2月	1,453	+43.0%	台湾	1,255	18.8%
R7年1月	1,709	+67.6%	韓国	1,171	17.5%
12月	1,393	+37.9%	香港	411	6.1%
11月	600	+44.9%	タイ	375	5.6%
10月	685	+38.7%	シンガポール	299	4.4%
下期計	6,660	+46.7%	アメリカ	259	3.9%
○年別推移(1～12月)			オーストラリア	241	3.6%
R6	8,874	+43.4%	その他	1,179	17.7%
R5	6,184	8.3倍	年合計	6,660	100%

根釧の経済概況（令和7年9月末基準）

住宅着工戸数

根室

■R7年上期合計は11戸で、前年から10戸減少。木材価格の高騰、金利上昇、建築基準法の改正など複数要因により減少。

□根室市住宅着工戸数

		月別				
		戸数(戸)	前年比(戸)	前年比		
R7年	9月	1	▲2	▲66.6%		
R7年	8月	7	+4	2.3倍		
R7年	7月	1	▲4	▲80.0%		
R7年	6月	0	▲4	全減		
R7年	5月	1	▲2	▲66.6%		
R7年	4月	1	▲2	▲66.6%		
		年別・利用別				
各年(4~9月)	持家	貸家	給与	分譲	合計	前年比
R7	11	0	0	0	11	▲47.6%
R6	17	3	0	1	21	▲50.0%
R5	23	15	2	2	42	+27.2%

釧路

■R7年上期合計は188戸、前年から32戸の減少。貸家は前年とほとんど変わらないが、持家が大幅に減少した。

□釧路市住宅着工戸数

		月別				
		戸数(戸)	前年比(戸)	前年比		
R7年	9月	76	+58	4.2倍		
R7年	8月	12	▲29	▲70.7%		
R7年	7月	61	+29	+90.6%		
R7年	6月	11	▲73	▲86.9%		
R7年	5月	16	▲6	▲27.2%		
R7年	4月	12	▲11	▲47.8%		
		年別・利用別				
各年(4~9月)	持家	貸家	給与	分譲	合計	前年比
R7	74	96	1	17	188	▲14.5%
R6	110	95	0	15	220	▲25.4%
R5	121	152	1	21	295	+0.3%

公共工事請負高

■R7年上期合計は20,505百万円で前年同期比5.7%の減少。2年連続の減少となる。根室管内の保証工事は漁港や養殖施設、庁舎の解体工事等が行なわれた。資材価格の高騰による調達困難、人手不足などの問題は今後も続くと思われる。

		年別	
各年(4~9月)	前払保証請負額(百万円)	前年比	
R7	20,505	▲5.7%	
R6	21,754	▲2.2%	
R5	22,265	+16.3%	
R4	19,132	+1.4%	

■R7年上期合計は41,644百万円で前年同期比13.7%の減少。釧路管内の保証工事は漁港、河川、学校施設、工業団地の造成等が行われた。上期全ての月で請負額が前年同期比で減少した。

		年別	
各年(4~9月)	前払保証請負額(百万円)	前年比	
R7	41,644	▲13.7%	
R6	48,256	+27.8%	
R5	37,753	+9.7%	
R4	34,389	▲3.4%	

企業倒産動向

■R7年上期の根室管内は倒産件数3件、負債額は96百万円で、件数は増加、負債額は減少した。3件とも販売不振により破産手続きを行っている。

		年別			
		【根室管内】		【うち、根室市】	
各年(4~9月)	件数	負債額(百万円)	件数	負債額(百万円)	
R7	3	96	1	35	
R6	1	240	0	0	
R5	3	490	1	350	
R4	0	0	0	0	
R3	0	0	0	0	

■R7年上期の釧路管内は倒産件数11件、負債額は608百万円で前年同期と件数は変わらないが、負債額は増加した。釧路市内は前年同期から3件減少したが、負債額は増加。

		年別			
		【釧路管内】		【うち、釧路市】	
各年(4~9月)	件数	負債額(百万円)	件数	負債額(百万円)	
R7	11	608	7	435	
R6	11	475	10	392	
R5	8	285	7	201	
R4	7	2,493	6	1,893	
R3	6	530	5	443	

訪日外国人延宿泊客数

■R6年度下期の訪日外国人の延宿泊客数は9,130人となり、全月で前年同期比増加。人流の回復や円安の影響から下期の入込客数が平成9年以降過去最高を更新しながらも、インバウンドや長期滞在者の受入が困難となる施設もあり、課題が残る部分もあると思われる。

R6年度下期月別推移			R6年度下期 国籍別		
月	(人)	前年比	国籍	(人)	シェア
3月	1,418	+70.8%	中国	2,239	24.5%
2月	4,392	+25.1%	台湾	2,063	22.5%
R7年1月	999	+8.5%	アメリカ	880	9.6%
12月	528	+21.9%	香港	451	4.9%
11月	530	+19.6%	イギリス	408	4.4%
10月	1,263	+19.6%	韓国	396	4.3%
下期計	9,130	+26.9%	シンガポール	327	3.5%
○年度別推移			フランス	264	2.8%
R6	16,901	+35.6%	その他	2,102	23.0%
R5	12,460	2.4倍	下期合計	9,130	100%

■R6年度下期の訪日外国人の延宿泊客数は、104,238人で前年同期比25.8%の増加。観光需要の活発化や円安、国際航空便の増加等を要因に、訪日外国人は増加傾向にある。国籍別では欧米豪からの旅行客が平成9年度以降、過去最高となっている。

R6年度下期月別推移			R6年度下期 国籍別		
月	(人)	前年比	国籍	(人)	シェア
3月	13,787	+20.7%	台湾	45,192	43.3%
2月	36,290	+22.8%	中国	22,611	21.6%
R7年1月	21,240	+64.5%	香港	7,248	6.9%
12月	11,091	+26.3%	シンガポール	4,618	4.4%
11月	6,216	▲0.8%	アメリカ	3,394	3.2%
10月	15,614	+12.4%	韓国	2,413	2.3%
下期計	104,238	+25.8%	マレーシア	2,262	2.1%
○年度別推移			オーストラリア	1,724	1.6%
R6	169,980	+21.5%	その他	14,776	14.1%
R5	139,891	2.9倍	下期合計	104,238	100%